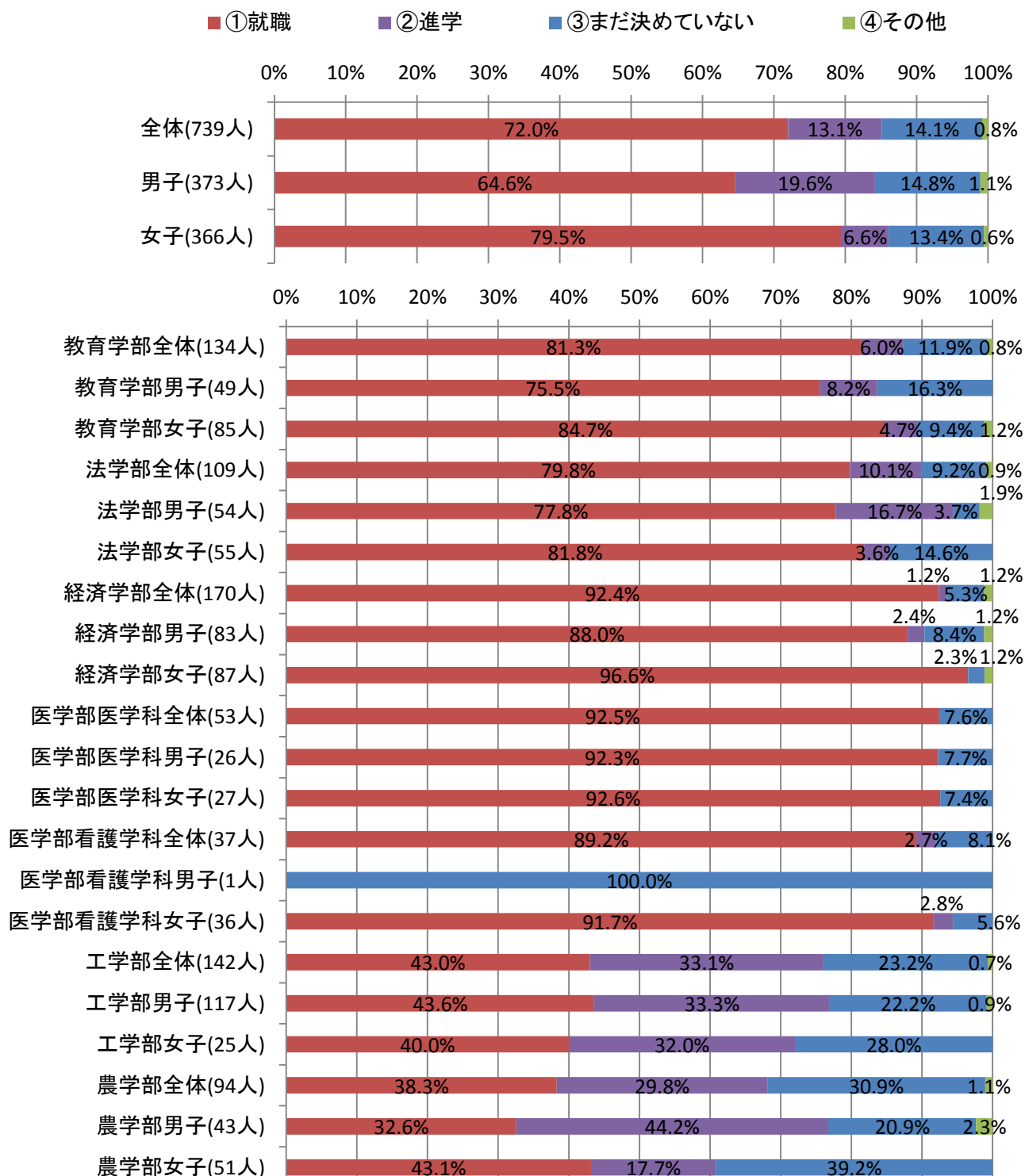


3 職業選択

(1) 卒業後の進路

問34 あなたは卒業後の進路についてどのように考えていますか。

卒業後の進路に「就職」を考えている学生は全体の72.0%であり、2000年度の調査以降で最も高くなりました。また、25年度の65.1%、27年度の67.8%に続いて増加傾向にあります。この結果を性別にみると、男子は61.6%と前回・前々回の結果と同程度ですが、女子は25年度、27年度に続けて増加し、今回はほぼ8割の79.5%に達しています。「就職」と答えた割合を学部別にみると、医学部医学科、経済学部、医学部看護科が約90%、教育学部、法学部が約80%と高いのに対し、工学部と農学部は約40%でした。工学部と農学部は「進学」の割合が高いのと、「まだ決めていない」と答える学生も多いために「就職」の割合が低くなっていました。

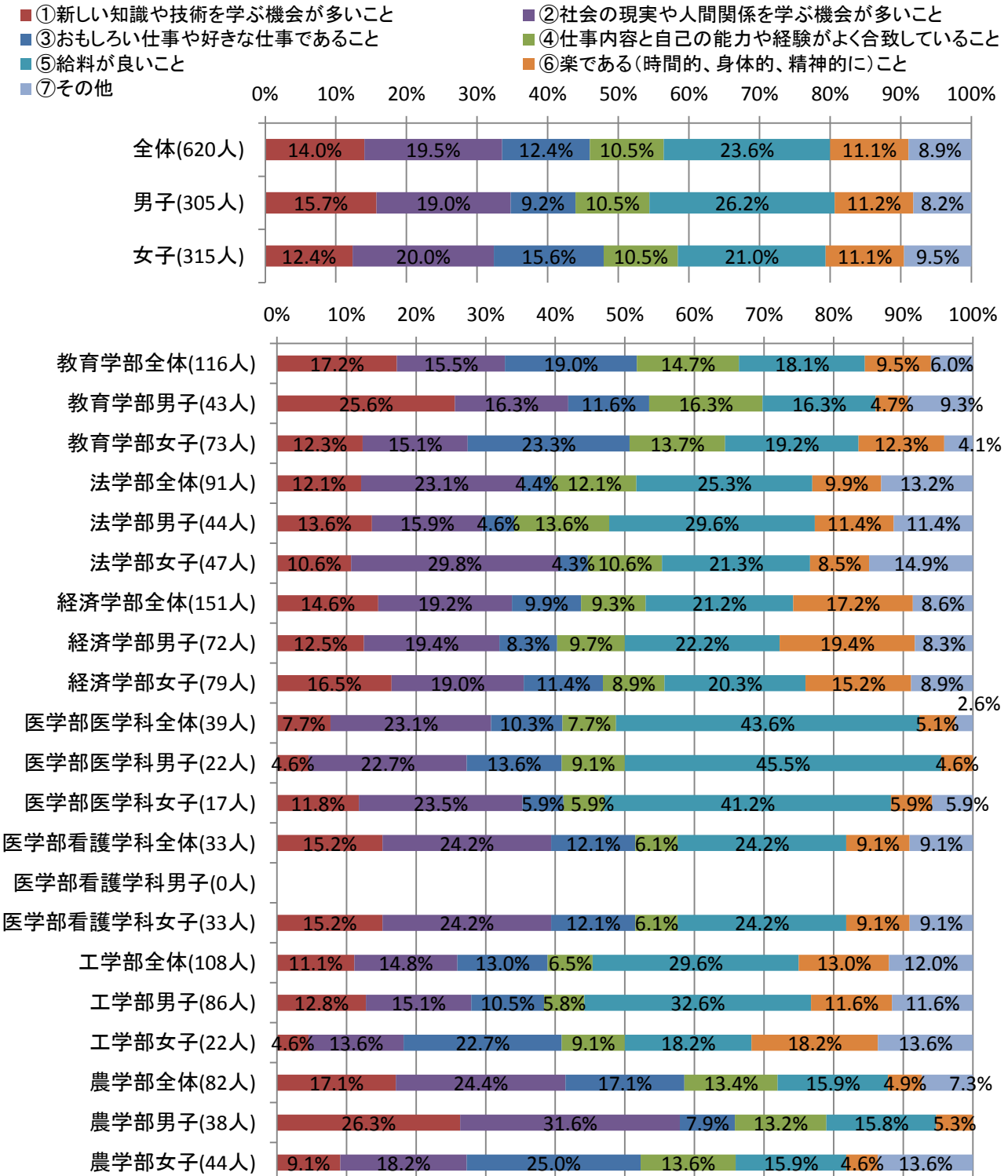


(2)選ぶ基準

問35 あなたがアルバイトをしたとき、何を基準にして仕事を選びましたか。

アルバイトを選ぶ基準は、全体では「給料が良いこと」が最も高く、「社会の現実や人間関係を学ぶ機会が多いこと」が続きました。男女別では「給料が良いこと」と「新しい知識や技術を学ぶ機会が多いこと」は男子で、「社会の現実や人間関係を学ぶ機会が多いこと」と「おもしろい仕事や好きな仕事であること」は女子で高くなりました。

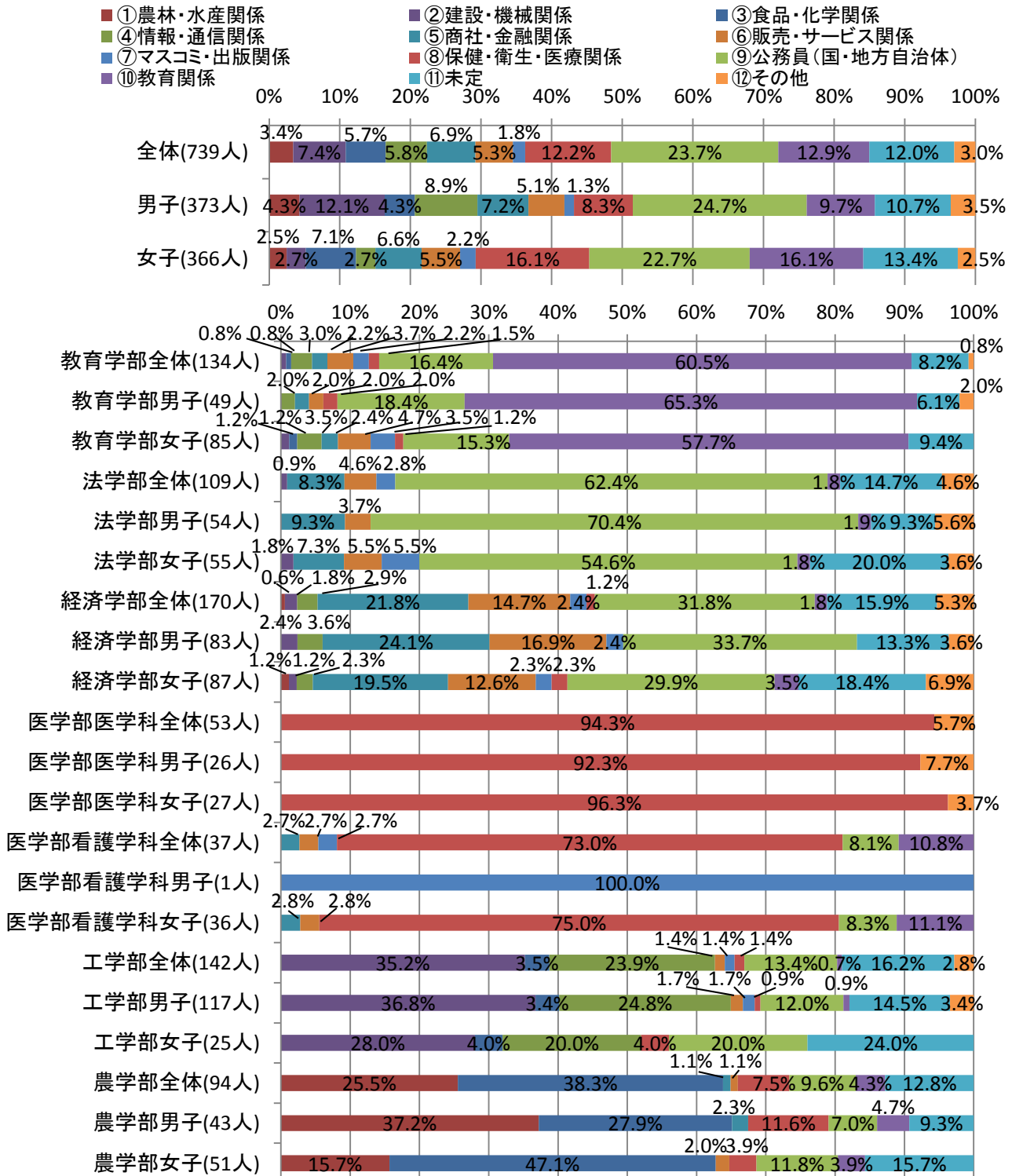
学部別にみると、医学部医学科と工学部は「給料が良いこと」が最も高く、医学部看護学科、法学部、経済学部は「給料が良いこと」と「社会の現実や人間関係を学ぶ機会が多いこと」がほぼ同程度で高い傾向にありました。教育学部は「給料が良いこと」と「おもしろい仕事や好きな仕事であること」がほぼ同程度に高く、農学部は「社会の現実や人間関係を学ぶ機会が多いこと」が最も高くなりました。



(3) 希望する分野

問36 職業を決めるにあたって希望する分野は何ですか。次のうちから一つ選んで教えてください。

希望する職業分野は、全体では「公務員(国・地方自治体)」が23.7%で最も高く、次いで「教育関係」、「保健・衛生・医療関係」および「未定」の約12%の順でした。学部別にみると、医学部は「保健・衛生・医療関係」、教育学部は「教育関係」、法学部は「公務員(国・地方自治体)」が際立って高く、経済学部は「公務員(国・地方自治体)」と「商社・金融関係」、工学部は「建設・機械関係」と「情報・通信関係」、農学部は「食品・化学関係」と「農林・水産関係」が高い傾向にありました。

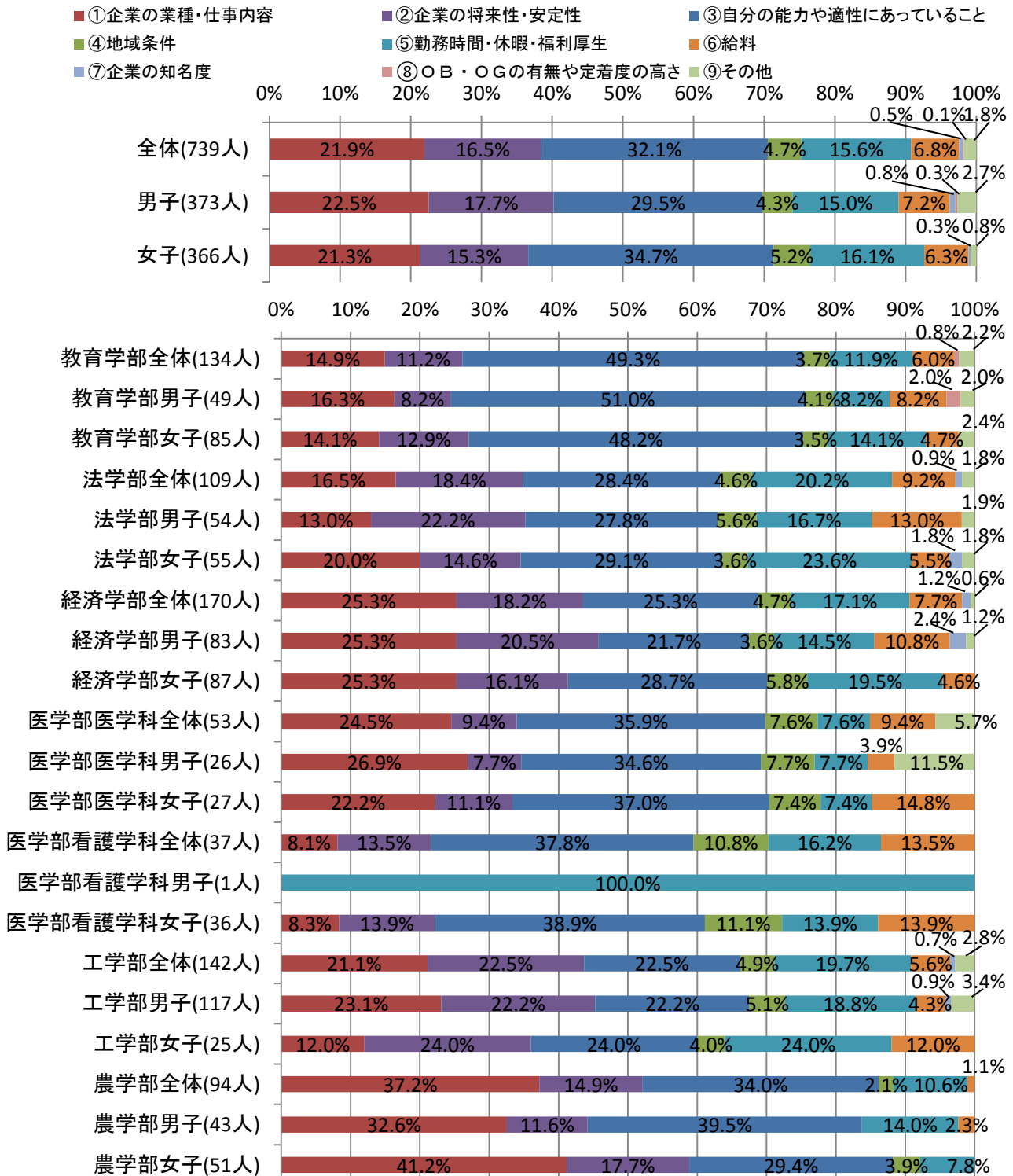


(4)職業選定で重視すること

問37 職業を決めるにあたって重視することは何ですか。

職業を決めるにあたって重視することは、全体では「自分の能力や適性にあっていること」が32.1%で最も高く、次いで「企業の業種・仕事内容」(21.9%)、「企業の将来性・安定性」(16.5%)、「勤務時間・休暇・福利厚生」(15.6%)の順でした。

学部別にみると、医学部、教育学部、法学部は「自分の能力や適性にあっていること」が際立って高く、農学部では「企業の業種・仕事内容」と「企業の将来性・安定性」が高い傾向にありました。経済学部と工学部では「企業の業種・仕事内容」、「企業の将来性・安定性」などに回答が分散していました。

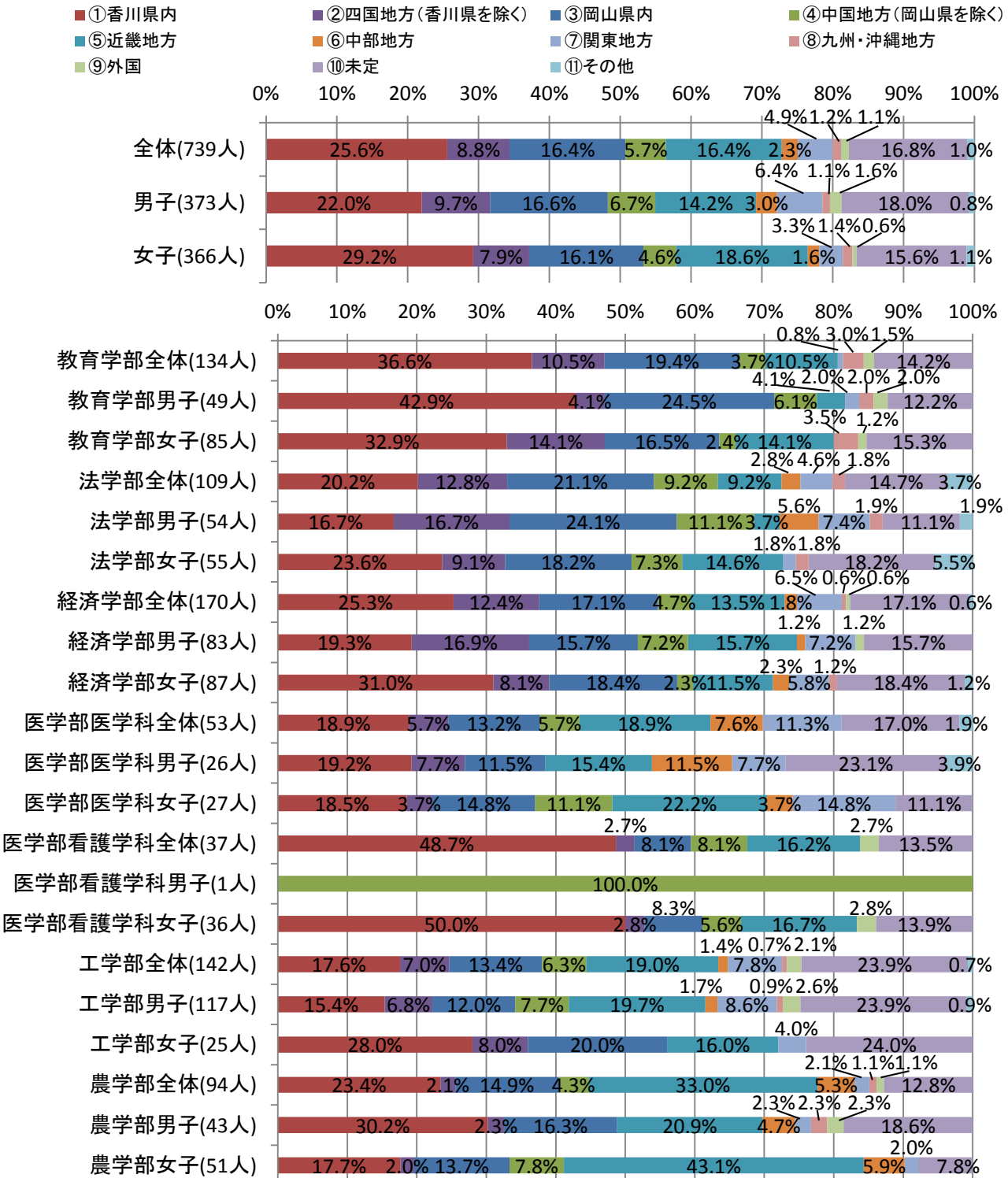


(5)就職希望地域

問38 就職先としてどの地域を希望しますか。

就職先として希望する地域は全体では香川県内が25.6%で最も高く、次いで岡山県内、近畿地方、未定が約16%の順でした。男女別では、香川県内を希望する割合が男子の22.0%に対して女子は29.2%と高くなるのが目立ちました。

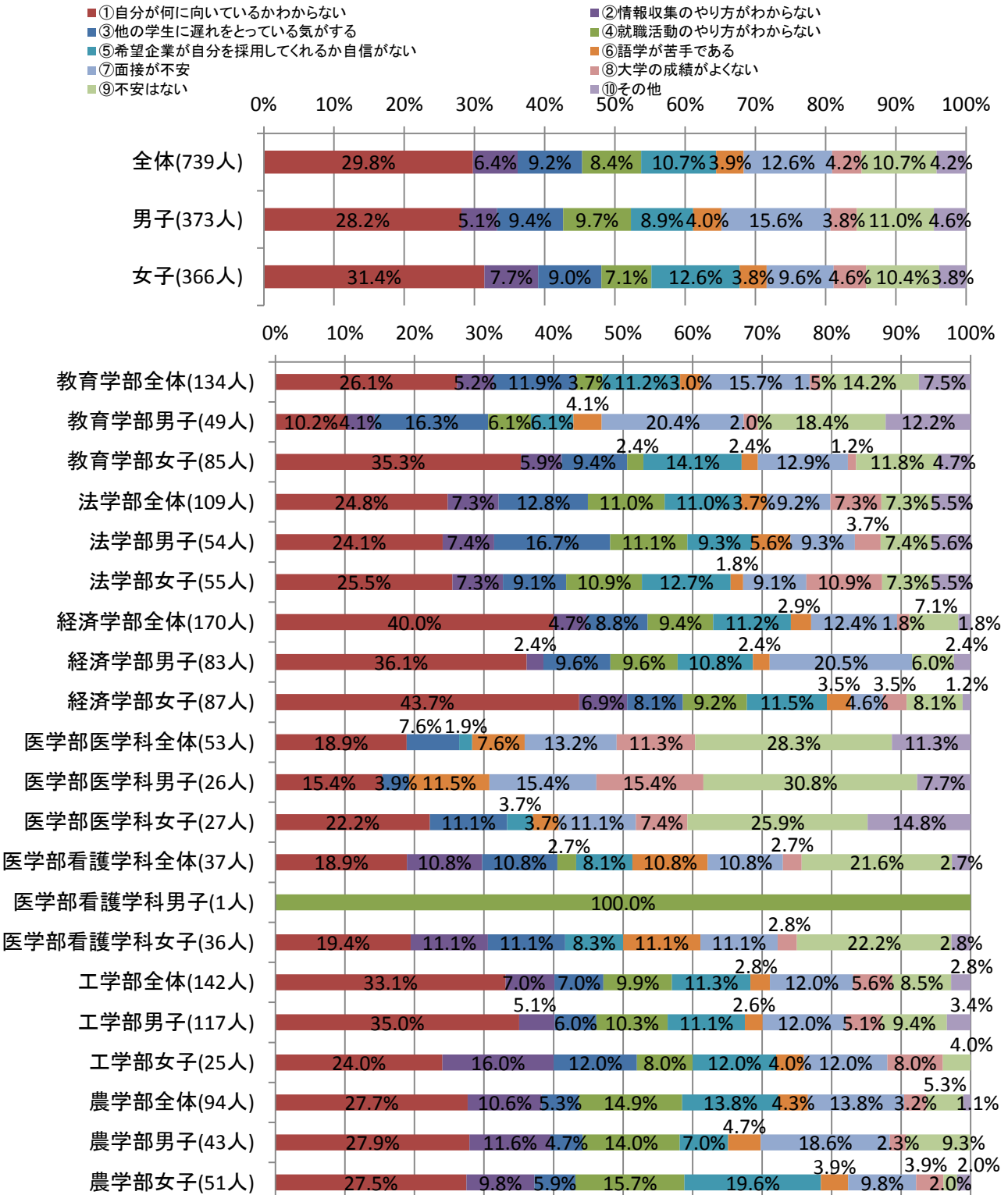
学部別に見ると、医学部看護学科、教育学部で香川県内を希望する割合が高く、農学部は近畿地方が高いのが目立ちました。



(6) 就職活動で不安なこと

問39 就職活動に関して、不安に思っていることは何ですか。次のうちから一つ選んで答えてください。

就職活動に関して不安に思っていることは、全体では「自分が何に向いているかわからない」が29.8%と最も高く、次いで「面接が不安」の12.6%の順でした。男女別にみると、「自分が何に向いているかわからない」は女子の方が、「面接が不安」は男子の方が高くなりました。学部別にみると医学部以外の学部では「自分が何に向いているかわからない」の割合が最も高くなりましたが、医学部のみ「不安はない」が最も高く、次いで「自分が何に向いているかわからない」の順でした。



(7)就職に関する大学への要望

問40 就職に関する大学への要望について、次のうちから一つ選んで答えてください。

就職に関する大学への要望は、全体では「面接対策、履歴書・エントリーシートの書き方の実践指導の充実」が23.6%で最も高く、次いで「公務員・教員試験講座を開くなど各種試験の合格対策」の15.3%、「就職情報誌、就職関係書籍、PC(利用環境)の充実」の12.7%の順でした。男女別にみると、男子に比較して女子は「就職情報誌、就職関係書籍、PC(利用環境)の充実」と「ガイダンス、セミナー等の充実」の割合が低く、「相談員による就職相談、職業適性検査の充実」と「面接対策、履歴書・エントリーシートの書き方の実践指導の充実」の割合が高い傾向にありました。

